

改訂生徒指導提要

～臨時職員会によせて～

2024・7・1 重枝 一郎

2022年12月に生徒指導提要が改訂された（校長研修だより24・75・112）。

改訂のキーワードは、「積極的な生徒指導」「生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援」である。改訂生徒指導提要について、簡単に解説する。

まずは、【生徒指導の定義】について読むと、これは、「社会の中で自分らしく生きることができる存在に成長させる」ことを書いている。本校の「大切なひとり」につながる。つまり、「自己存在価値を高める」ということになる。

次に、【生徒指導の目的】について読むと、これは「可能性を広げる」ことが書かれている。ただそれは、「社会に受け入れられる自己実現」となっている。これは、いつも言っている「逆三角形型のこれからの進路指導」につながる。

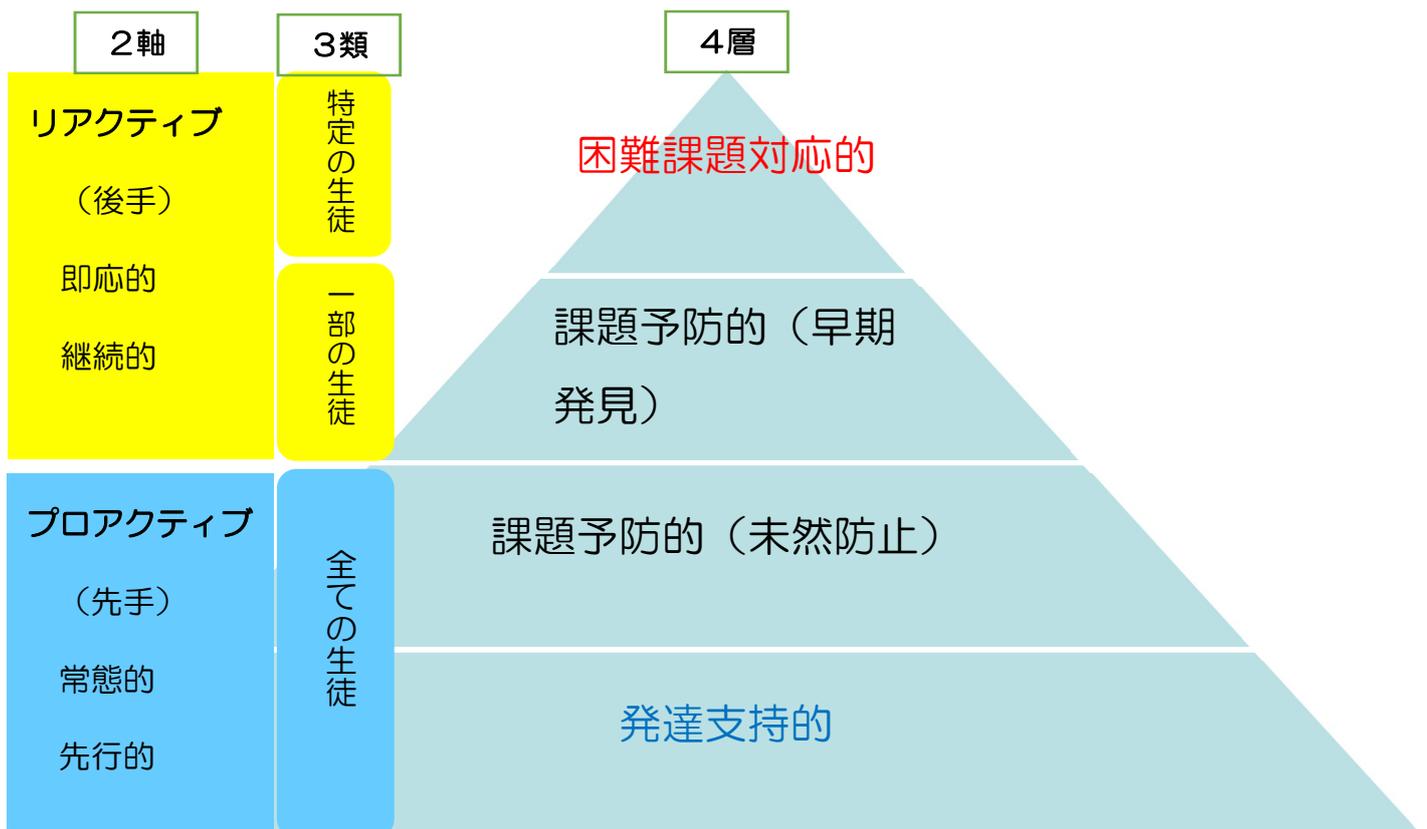
そして、【生徒指導の目的】を達成するためには、これまで通り、「自己指導能力を身に付ける」となっている。自己指導能力の育成は、これまた、いつも言う自律型学習者の育成と同じと考えてよい。そう考えると、本校の取組を、自信をもってやるだけになる。

その実践上の視点として、4つのことが挙げられている。この生徒指導の土台とも言える部分については、私たちの日々の、授業をはじめとする様々な場面での努力項目になる。

- ①自己存在感の感受：「自分も一人の人間として大切にされている自己肯定感」「役に立っている自己有用感」
- ②自己決定の場の提供：意見を述べる、自分で選択し決定する、体験的である
- ③共感的な人間関係の育成：チャレンジできる、間違っても大丈夫といった支持的で創造的なクラスづくり
- ④安全・安心な風土の醸成：認め合う関係、リスペクトの精神

この4つは、これまでも言われていた。

生徒指導の構造については、今回の改訂では、下図のような「2軸3類4層構造」になっている。



ここでも言われているのが、生徒指導のイメージのことである。「生徒指導」という言葉に、課題が起き始めたことを認知したらすぐに対応する（即応的）、あるいは、困難な課題に対して組織的に粘り強く取り組む（継続的）という雰囲気根強く残っている。しかし、起きてからどう対応するかという以上に、どうすれば起きないようにするのかという点に注力することが大切と書いてある。私が、これまで「開発的生徒指導」と言っていたことである。校長研修だよりの75号の「山登りの話」をもう一度読んでみてほしい。すべての生徒が対象であり、先手的である、ということは授業化できる。校長研修で行ったGWTなどが一つのやり方になる。自分のよさ、相手のよさ、協力のよさを感じ得できるようなワークである。本校でも、「アサーションTR」や「Q-Uアンケート」等の取組はしているが、「朝の礼拝」や「LHR」のプロアクティブな取組が最も大切になる。

改訂生徒指導提要には、生徒指導の基盤としてまず書かれているのが、「教職員集団の同僚性」という項目である。生徒指導が実効的に機能するには、職場の組織風土が基盤となる。その基盤の上に、担任、学年主任、生徒指導主事、教育相談コーディネーター、養護教諭、SC等の校内連携型支援チームによる組織的対応が機能していく。私は、もっと言うと隣に座っている職員が大切な人になると考えている。

また、キャリア教育と生徒指導は深い関係があると言っている。問題行動は、自己の反省だけでは再発防止力は弱く、自他の人生の影響を考えると、自己の生き方を見つめること、自己の内面の変化を振り返ること及び将来の夢や進路目標を明確にすることが重要になる。

私は、本校の教職員はこの基盤部分がすばらしいと、また、キャリア教育にも力を入れていると、様々な場面で話している。

このように、改訂生徒指導提要を読みながら、自分たちの実践を置きかえてみる。そうすることで、学校における生徒指導の一層の推進や、自分自身の対応力の向上につながる。